サンコーインダストリー

長田センター開設

自動倉庫導入 物流機能を強化

ねじ・工具流通大手のサンコーインダストリー（本社＝大阪市西区、奥山淑英社長）は、製品の物流機能を強化している。大阪府東大阪市の主力拠点「東大阪物流センター」の増築に続き、3月に東大阪市内に「長田センター」を開設、自動倉庫を導入した。取り扱いアイテム数の拡大や注文の小ロット化に対応し、顧客サービスの充実を図っている。

同社の取扱商品はねじ・ビス類をはじめ工具、その他資材・消耗品関連で、近年は特に同アイテム数が増加。同時にねじ1本などバラ単位の受注が増えており、約10年間で数倍にまで上昇した。アイテム数増と小ロットのニーズに対応するため、物流機能の一層の強化を図った。

3月に竣工、開設した長田センター（敷地面積約5000平方㍍）は、ダイフク製のパレット自動倉庫（コンパクトシステム、4290パレット）を導入した。東大阪物流センターや運用する外部倉庫の機能を補完し、効率的な在庫・出荷を行う。

一方、主力の東大阪物流センターでは約1年間かけて建屋の拡張工事を実施。13年9月に同センターの「4号館」として完成し、本格稼働を開始した。バラ単位商品のピッキング作業の省力化、高速化と省スペースでの在庫を行うため、岡村製作所製の「ロータリーラックH」を導入し、活用している。導入前に比べて10－20％の作業効率化を実現した。

これらの取り組みによって、取扱商品は前年度の50万アイテムから、15万点増の65万アイテムまで拡大。1オーダー当たりの注文数量は減少しているが、品ぞろえの拡充とオーダー回数の増加が奏功し、同社の14年2月期の売上高は前期比13％アップとなった。

同社では「ねじ製品、ねじ以外の製品ともにアイテム数を増やして、お客さまのニーズに対応していきたい。前年度のように1年で15万アイテム増えたのは予想以上だったが、加速度的にアイテム数は増える可能性があり、近い将来に100万アイテムの取り扱いを目指す」（奥山社長）としている。

3月から稼働した長田センター